

果樹試験場成果発表課題 要約

1. ウンシュウミカン‘あおさん’の貯蔵方法について

(主査研究員 宮井良介)

1月下旬に収穫した果実を無包装で貯蔵すると、貯蔵1ヶ月を過ぎた3月に果皮障害(しなび、ヘタ枯れ)が急激に増加したが、貯蔵環境の湿度を高く保持するタイバックを用いた包装や木箱内で貯蔵することで、果皮障害を軽減することが可能であった。

2. サンショウにおける摘心の影響と樹勢維持に向けた取り組み

(研究員 松本大)

ブドウサンショウにおいて、発育枝に対する夏期の摘心処理による翌年の着果および樹体への影響について調査したところ、無摘心に比べて翌年の結実性や樹勢が良くなる傾向がみられた。

3. ブドウザンショウの生態と増産に向けた取り組み

(和歌山県立有田中央高校 仲里長浩)

本研究は地域の高齢化対策と増産に向けた取り組みの一環として実施してきた内容である。今回紹介するのは、ミカン科のブドウザンショウが雌雄異株の果樹であるという異色の生態であることから、花の咲く時期や生産物の利用の可能性について話をまとめた。次に管理作業の軽減を見据えた防草シートの有効性を検証した。さらに、ブドウザンショウの接ぎ木技術の向上を目指した取り組みを紹介する。この接ぎ木のポイントは多くの果樹でも応用できるので紹介したい。

4. 立木とネットを利用した軽量のシカ捕獲用囲いワナの開発

(主任研究員 角川敬造)

立木と高強度ポリエチレン繊維ネットを用いた囲いワナを考案した。このワナは、防護柵の穴や隙間から侵入するシカの習性を利用したもので、ネット地際部からもぐり込ませて捕獲する。一般の金属製囲いワナと比べて軽量で運びやすく低コストなため、シカ捕獲ワナとして有効である。

5. ベフラン液剤25失効後のカンキツ貯蔵病害対策

(副主査研究員 直川幸生)

ベルコートフロアブルは2,000倍でベンレート水和剤と混用することで各剤の単用よりも緑かび病に対して高い効果を示した。また、ベンゾイミダゾール系薬剤(ベンレート水和剤、トップジンM水和剤)の耐性菌に対しても効果があり、ベフラン液剤25の代替薬剤として有望と考えられた。